

日陰沢

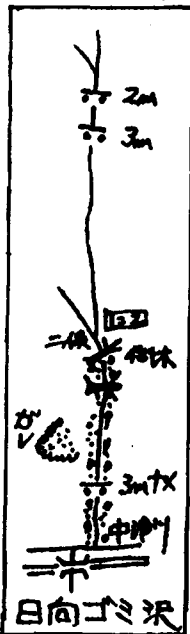
日陰ゴミ沢左俣左沢

1984年7月28日
L.

二俣から右沢の出合まで、快適な滝登りとナメを楽しむ。二俣で小休止後、左沢に入る。いきなりの4mの滝は、何なくパス。このあと、ナメ状の小滝が続き、すべて直登する。沢にヤブがかぶってきたあたりから尾根めざして左の支沢に入る。10分くらいのやぶこぎで尾根に出て、秋達沢右俣の下降に移る。

(記・)

[タイム] 二俣(11:15)→右沢出合(11:30)→尾根(12:15)



日向ゴミ沢(下降)

1984年7月21日
L.

尾根から5分も下ると、日向ゴミ沢に出る。源頭部は樹林帯であり、ヤブは少ない。

9時55分、二俣を確認して先に進む。2~3mの小滝をクライミングダウンし、10時20分再び二俣。

これより中津川出合までは、平坦なゴーロ状となる。名前のごとく陽があたって明るい、全く平凡な河原歩きのごみ沢であった。

(記・)

[タイム] 尾根(9:30)→中津川出合(10:40)

秋達沢右俣(下降)

1984年7月29日
L.

出合から最初の滝がのぞめた。この滝はなんなくパスできたが、先が期待できそう、意気あがる。7:30身仕度をととのえて出発。

ナメや小滝を越えて進むと、4mヒュングリの滝、中央を登る。ここらあたりからいよいよV字峡となってくる。そして3~6mの滝の連続。いずれもバランスやフリクションで越える滝である。帰りにここを下降することを考えると、少々心配になってきた。

8時、二俣。左俣に入る。2段4mとそれに続く小滝を越えて進むと、まもなく第二の連続帯。いずれも順層の滝で、直登できる。

沢の中程は倒木が多く、またぎながら進む。やがて1~2mの小滝が連続したあとに7mの滝が出る。これは直瀑なので、右岸のやぶを高踏く。

すぐ二俣。左俣には10mの滝があり面白そうだったが、水量の多い右俣をつめる。こちらはブッシュが多く、だんだん急登となる。水が濡れた頃から、垂直に近いくらいの壁をブッシュにつかまりながら登り、尾根に出て日陰ゴミ沢の遡行を終える。

(記・

【タイム】 日陰ゴミ沢出合(9:20)→二俣(10:05)→尾根(13:55)

日陰記

日陰ゴミ沢左俣右沢

1984年7月29日

L

秋遠沢左俣の遡行を終えて尾根に出たのが9時30分。このまま下るのもつまらないということで、日陰ゴミ沢左俣右沢を下降し、左沢を遡行してから秋遠沢右俣を下降しようということになって、9時40分下降開始。

5分くらいのヤブこぎで沢に降りる。しばらく下降すると、ナメ状の小滝が次々と現われる。すべてクライミングダウン。登ってみたらおもしろいだろうと考えながら下る。

左沢出合で小休止後、二俣まで下降。5~10mの小滝が続くがすべてクライミングダウンできた。11:15下降終了。

(記・

【タイム】 下降開始(9:40)→左沢出合(10:50)→右俣出合・下降終了(11:15)

